

25知事選の告示にあたって

2025年3月6日

「県民を主人公に、憲法をくらしに生かす福岡県民の会」（略称「県民の会」）

争点、知事を選ぶ基準がかつてなく鮮明な選挙です

3月6日告示、23日投票の知事選は、「オール与党」と財界、「連合」が推薦する服部誠太郎知事（70）と「変えよう！県政 市民の力」（略称「市民の力」）と「県民を主人公に、憲法をくらしに生かす福岡県民の会」（略称「県民の会」）の共同候補、日本共産党とふくおか緑の党が支持する吉田幸一郎弁護士（45）の事実上の一騎打ちの様相です。

「7つのチェンジ」 県政政策を学び、広げましょう

今回の選挙は、「市民の力」と「県民の会」が共同で候補者をたて、共同で政策を練り上げ、文字通りワンチームになってのぞんでいます。

「市民の力」は、2月28日に、基本政策「吉田幸一郎 7つのチェンジ」を発表する記者会見をしました。「7つのチェンジ」とは、次の通りです。

- ① 大企業・開発優先、利権政治やめ、くらし優先に
- ② 「何より、いのちと人権」 本気の災害対策を
- ③ 戦後・被爆80周年 福岡県を平和の拠点に
- ④ だれもが自分らしく生きられる福岡県に
- ⑤ 原発ゼロ・気候危機打開 子どもの未来をまもる
- ⑥ 農林水産業の支援で、食の安全と地域の元気を
- ⑦ 中小企業優先の産業政策で地域経済を元気に

「7つのチェンジ」の解説文書では、①の「大企業・開発優先、利権政治やめ、くらし優先に」が全体の半分近くをしめており、今回の知事選の最大争点でもあります。

ぜひ、関心のあるテーマだけでも県政の焦点を学び、語る力にしてください。

告示前から論戦をリードしていることに確信をもって総決起を

吉田幸一郎氏と「市民の力」「県民の会」が打ち出している争点、「選択の基準」は鮮明で、吉田幸一郎氏の攻勢的な論戦にメディアも注目し、すでに論戦をリードしています。

県民のくらし最優先の県政か、財界・「オール与党」最優先の県政か

第一に、県民のくらし最優先の県政か、財界・「オール与党」最優先の県政か。

吉田幸一郎氏は、基本政策発表の会見で、「私の最大の関心は貧困問題です」ときっぱりと言い切り、「失われた30年」と物価高で苦しむ県民を前に、最低賃金時給1500円をめざす県独自の中小企業への賃上げ支援や学校給食費の全県無償化をはじめ、県独自の積

極的なくらし応援の施策を「私は、必ず実行します」と力強く語りました。とくに、イギリスでの滞在経験をふまえて、「福岡県の貧困の一番の原因は時給1000円にも満たない最低賃金。ヨーロッパの国ではすでに2000円。一刻も早く1500円を実現し、2000円をめざしたい」と訴えています。

そして、吉田幸一郎氏は、自民県議団のドン（蔵内勇夫県議）に忬度した100億円の「ワンヘルス」事業や370億円余を投じて終わらない巨大公園整備、県政を食い物にする「オール与党」利権の一角である1億円の贈収賄「トランポリン汚職」や3年間で2・8億円の知事と与党会派の海外視察費、財界・大企業に忬度した3500億円の下関北九州道路や1社10億円から50億円にアップした大企業補助金などをたたすことを約束しました。そして、「くらし応援の思い切った政策を実行できるのは、税金のつかい方をただして財源をつくる私、吉田幸一郎だ」ときっぱりと語りました。

吉田幸一郎氏なら、「県政の刷新」ができるし、県民がのぞむくらしの応援ができます。

「県民の安心・安全」の立場で積極的平和施策を推進する県政か 「戦争する国」づくりいいなりの県政か

第二に、「県民の安心・安全」の立場からモノを言い、積極的な平和施策を推進する県政か、「戦争する国」づくりいいなりの県政か。

県内では、福岡空港、北九州空港、博多港を戦争の出撃拠点にするなどの県民を戦火にまきこむ国の動きが加速しています。これに対して服部知事は、「防衛問題は国の専管事項」と思考停止して、ていねいな説明を求めることや「オスプレイは住宅地上空を飛ぶな」と求めることさえもしない九州・沖縄唯一の県です。

「市民の力」「県民の会」の基本政策は、「県民の安心・安全」をまもるという自治体の責務に立ってモノを言い、「大軍拡に反対し、憲法9条を生かした外交の力で平和を築くことを求める県政に変える」としています。吉田幸一郎氏が知事になれば、戦後・被爆80周年にあらためて「非核平和宣言」を発し、平和を推進する積極的とりくみを実行します。

県民不在の「オール与党」利権政治の刷新か、継続か

第三に、県民不在の「オール与党」利権政治の刷新か、継続か。

吉田幸一郎氏は、会見で「服部氏は、県庁に40年以上つとめて、県民のために何をしたのか」「なぜ県議会重鎮県議への忬度としか思えないワンヘルス事業に100億円以上もつかおうとしているのか」と告発し、「私が知事になったら、何が県民がのぞんでいることなのか、その政策を実行すべき根拠は何なのか、県議会としっかり議論します。そのためにも、県民のみなさん、中小企業や農林水産業のみなさんとも直接対話し、何が必要かをいっしょに考えていく。これを絶対にやります」と決意を語りました。

多くのメディアが服部知事と県議会「オール与党」の県民不在のゆがんだ関係を告発し、前回知事選で「県政初の生え抜き知事」として注目された服部県政の4年間に総括し

た記事を出しています。そのなかで、服部氏の実像が、「オール与党」忖度の「生え抜き」であることが明らかになりました。

2月14日のRKBが、「福岡県政を検証」として、「ワンヘルス」事業は県民がのぞむものなのか、自民党重鎮県議に忖度したものではないのかという角度から放送をしました。放送では、「このワンヘルスを服部知事と共に中心となって推進してきたのが、世界獣医師会の次期会長である福岡県議会の重鎮・自民党の蔵内勇夫議員です」とのべ、両氏のコメントを流しました。蔵内氏「この4年間、服部知事は私どもの想像を超え、120%以上の福岡県政発展に努力をし、実績を残された」。服部知事「蔵内会長はワンヘルスの提唱者、伝道師」。

西日本新聞は3日連続で、いまの県政を象徴する「いびつな『両輪』」という記事を出しました。「(服部知事と蔵内県議は)どっちが本当のトップか」「重鎮県議の看板 知事印に」(2月26日)。

くわえて、前回選挙では服部氏側が「公開討論会」のよびかけを逃げ続けたことをふまえ、吉田幸一郎氏は、2月19日の出馬会見で討論会の実施をよびかけました。定例会見でそのことを指摘された服部氏は、「逃げているわけでない」「前向きに検討する」と言わざるを得ませんでした。しかし、その後「市民の力」が直接服部事務所を訪ねて日程調整を申し入れても、「公務の調整がきかない」と逃げました。

吉田幸一郎氏は会見で、「県民を代表する知事を選ぶ選挙で公開討論をして県民に選択肢を示すこと以上の大切な公務があるのか」「自らを支持する政治家や政党の要望だけを聞いて、県民の前で議論をしない政治。こんな時代遅れの古い政治が福岡県で続いていることに驚いた」と厳しく批判して、「私が知事になれば絶対に変える」と断言しました。吉田幸一郎氏の「世代交代」とは、こうした時代錯誤の「オール与党」利権政治を刷新するという意味なのです。

3月3日、追いつめられた服部知事は、「告示後に個人演説会を同じ場所で開催することで実現したい」と吉田幸一郎氏側に打診したことを会見で明らかにしています。

「オール与党」県政と県民の矛盾が頂点に がんばれば大きな激動が起きる可能性

3月3日、服部知事が公約を発表しました。

- 子育て支援では、男性の育児休業の取得を後押しし、病児保育や不妊治療などに基金を活用する。
- 最低賃金の時給1500円をめざし、中小企業が価格転嫁して賃上げができるよう、有識者の派遣や取引先・消費者への啓発活動などを行う。
- ワンヘルスの強化。

これらは、吉田幸一郎氏の公約を相当意識しており、がっぷり四つの論戦になっています。しかし、子育て支援では、義務教育で最大の負担の学校給食無償化がありません。最

低賃金時給1500円をめざすといいますが、肝心の中小企業への直接支援はありません。そして、自民重鎮県議への忖度事業「ワンヘルス」については「強化」すると、あくまでも正面对決してくる救いようのなさです。

今年、「オール与党」県政になって30年です。今回の知事選は、服部県政の4年間で、「オール与党」利権共同体と化した県政と県民との矛盾が頂点に達するなかでむかえています。

「県民の会」は、2月4日の臨時総会で決めた運動方針のなかで、『オール与党』体制は、現知事を支持したかどうかで『分断と差別』を持ち込み、県政を『利権共同体』にゆがめているのではないのでしょうか。こうした時代遅れのこの体制をあらためなければ、『県民が主人公の風通しの良い県政』は実現しません」と指摘していました。そのことが、吉田幸一郎氏、「市民の力」のみなさんと同じ志となり、これが知事選の焦点になっています。

吉田幸一郎氏の訴え、私たちの政策が届けば届くほど支持の輪が広がるおもしろい情勢で選挙戦をむかえています。「県民の会」が、30年にわたる「オール与党」県政と不屈にたたかいつづけてきたことが、今回、市民との新しい共同のプラットフォームを生み出し、がんばれば大きな激動が起きる可能性をはらんだ情勢を切り開いています。このことをおおいにみんなの確信にして、残る期間全力をつくそうではありませんか。